

Miare Art Festival

自然と、宇宙と。その一部になる20日間。

2026.10.1 THU

10.20 TUE

会期：2026年10月1日(木) — 10月20日(火)

FREE ENTRY
入場無料

※展示場所や作品の内容は、都合により変更となる場合があります。また、一部の作品は会期後も展示が延長される可能性があります。

Munakata Miare Art Festival 2026

古代から受け継がれてきた宗像の歴史や自然、祈りを、現代アートが新たな物語として紡ぎます。
宗像の時間と想いにふれる、年に一度の芸術祭をぜひお楽しみください。

10.1 THU → 10.20 TUE

作品画像はイメージです。

01 公募作品 全国の応募の中から選ばれた6組のアーティストが、宗像の歴史・自然・文化と向き合い、新たな作品を制作します。

むなかた鏡

コーナキューブ型電波反射器、
先進レーダ衛星「だいち4号」

📍 宗像大社辺津宮・祈願殿前



宇宙飛行士は宇宙で観た地球の姿に影響を受け、帰還後に新しい人生観を得ることがあるといわれている。本作は、地球観測衛星と電波反射器を利用して宗像大社内に現代の「銅鏡」を設え、宇宙から私たちを観ようとする試みである。

※10月15日にワークショップ開催予定。
詳細はHP・SNSをご覧ください。



鈴木浩之＋大木真人

2025年「種子島宇宙芸術祭 2025」／種子島宇宙センター、2019年「文化庁 文化芸術による子供育成総合事業」、2019年「第22回文化庁メディア芸術祭」／審査委員会推薦作品選出、2016年「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」

めぐりモノ

日用品、遺物、自然物、
記憶、環境音、物音

📍 地島



写真：西海一紗
音蔵庫(奥能登国際芸術祭 2023 旧上黒丸小中学校)

土地で収集した物や音を立体音響とともに構成し、モノや記憶が距離や時間を越えてめぐり、変化していく過程を体感するサウンド・インスタレーション。



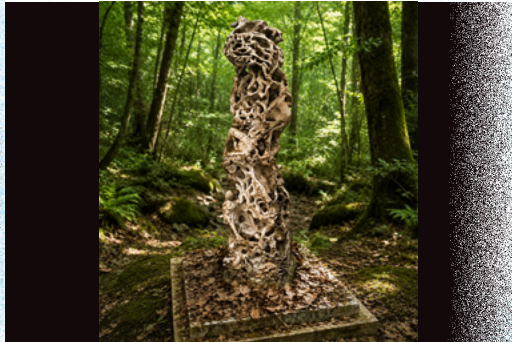
鈴木泰人

美術作家／特殊照明作家
光や音、場所性をテーマに、土地やモノに刻まれた記憶をリサーチを通して探り、インスタレーションやドローイング、パフォーマンスなど、多様な表現活動を行っている。

依代

大理石

📍 宗像大社辺津宮境内(高宮参道付近)



石が内に秘める生命の気配を掘り起こし、神々が宿る依代として表れる瞬間を表現。自然と彫刻の境界を探った作品。



武田 充生

1980年山口県生まれ。2007年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業、2009年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。現在は石彫を軸に、現代アートや妖怪を題材とした作品を制作している。

みあれ軸

木

📍 宗像大社辺津宮境内(高宮参道付近)



海を越えて沖ノ島へと続く祈りの方角を、一本の軸として現す歩行彫刻。歩くことで、宗像の土地と人が受け継いできた祈りの方角を身体で体験する。



市川 寛

ランドスケープデザイナー／アーティスト
人と場所との対話をテーマに、作品や空間を国内外で制作している。

Wave of Breath

麻糸、ガーゼ、銅、ミシンワーク

📍 宗像大社辺津宮・祈願殿内(9時～17時)



テーマ「いのちを結ぶ」を人間のみならず、目に見えぬ信仰・自然・環境・時間といったあらゆる関係性と捉える。光や風を取り込み変化し続ける繊維の空間作品を通して、宗像の「常若」の思想に触れ、多様ないのちが交差し巡る情景を表現。



大石 彩加

1998年島根県生まれ。2024年広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程染織造形修了。テキスタイル表現をベースに、主に繊維素材を用いた立体・空間表現を行う。

正しい歪

ターボリン・ポリエステル生地に
インクジェットプリント、
偏光シート、自作のZINE、他

📍 宗像大社辺津宮境内(高宮祭場手前、ほか)



宗像の“環境の変化”を現地に滞在して拾い集め、写真(布にプリント)やテキスト(ZINE)にしてインスタレーションする。
作品の一部はワークショップで制作する。



佐藤 隼と野中 瑞紀

美術家／写真家／中高教員
2025年に奈良県奈良市で結成。市立中高で勤務しながらそれぞれの専門(佐藤：現代美術、野中：社会学)を活かし、各地で探究的な協働プロジェクトをおこなっている。

02 協働企画(地域連携)

📍 JR赤間駅周辺

「傾けろいと企画」
赤間駅アート回廊プロジェクト

宗像市在住のPaco-Anne バコアン(1980年生)による「バンクス三女神」展。崇高なるものとその対極にあるものをテーマに描いた絵画の空間を創出する。

2026年10月1日(木)～18日(日)10:00～18:00
入場無料／JR赤間駅2階



03 自主提案企画

📍 宗像大社辺津宮境内

築瀬晃希『森の荒波』

玄界灘の荒々しい潮の流れを、ワタによる立体造形として森の中に立ち上げる。海を渡る力や気配を森へ重ね、歩きながら海と森が交わる空間を体験する作品である。

作家プロフィール：1994年福岡県生まれ。建築・空間デザインを学び、身体と環境の関係性をテーマに制作を行う。ワタを用いたインスタレーションを中心に各地で作品を発表。



04 研究連携企画



作家プロフィール：「環境」の視点から新しい都市・建築のあり方を問い、様々なテーマ・形で社会実装を行う取り組み。海洋プラスチックに着目した大学院生を中心としたチーム。

📍 宗像大社辺津宮境内

九州大学BeCAT / 末廣研究室
『海守(うみもり)』

捨てられ、忘れられ、漂い、海をのみこんでゆくプラスチック。生き物や人間すらも、のみこんでゆく。未来の海を守るため、ごみは新たな命を吹き込まれる。そして、また私たちのもとへ。
協力：株式会社へいせい、一般社団法人イデバ

📍 宗像大社辺津宮境内

HÖSLAB / 鹿児島大学 細海研究室

『三柱の社(みはしらのやしろ)』



作家プロフィール：鹿児島大学建築学科、細海研究室(HÖSLAB)による企画・制作。建築と場づくりの視点から、素材・身体・風景をつなぐ空間表現に取り組む。地域の自然や文化と対話する、開かれた公共空間の設計・研究・実践を重ねている。

05 特別企画

📍 宗像大社辺津宮 祈願殿

中村弘峰

『循環の面 未』

翌2027年の干支「未(ひつじ)」を象ったアルミニウム製の面を設置する。面の目穴に自分の目を重ねて世界を覗くとき、自分もまた大きな循環の中にいると気づく作品である。

協力：株式会社UACJ / フレーム製作協力：株式会社ヒロメンテナンス



作家プロフィール：1986年福岡市生まれ。「人形とは人の祈りを形にしたもの」を理念とする株式会社中村人形の四代目。自身に「もしも江戸時代の人形師が現代にタイムスリップしてきたら?」という設定を課し、過去と現代にまたがる普遍的な主題を見つけ、江戸期の人形技法を応用して伝統的な作品から現代美術まで多様な作品を制作発表している。

06 継続展示作品



📍 宗像ユリックス芝生広場、
芝生広場南側
水上ステージ前、池

2024
《命輪》

HÖSLAB /
鹿児島大学 細海研究室

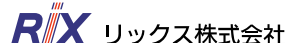
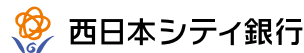


📍 株式会社森田設備開発

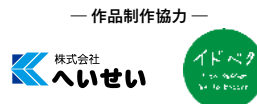
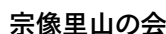
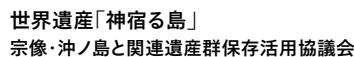
2025
ウォールアート

九州産業大学造形短期大学部、
ブーヴィエ・エミリオ・運 ほか

協賛



協力



作品制作協力(中村弘峰作品)



令和8年度
芸術文化振興基金助成事業

助成

Information

会期 2026年10月1日(木)―10月20日(火)

会場

宗像大社辺津宮

→JR東郷駅から車で約10分、バスで約12分

地島

→神湊港より渡船「ニューじのしま」で約15分

JR赤間駅

株式会社 森田設備開発

→JR教育大前駅より徒歩約20分
(〒811-4164 福岡県宗像市徳重163-1)

お問い合わせ

宗像現代美術展実行委員会

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331(宗像大社内)

E-mail: info@miare-art.com 事務局: TEL 080-4454-7911



主催: 西日本新聞社、宗像現代美術展実行委員会
共催: 宗像市、宗像市教育委員会、宗像大社
特別協賛: 久原本家グループ・伊豆本店

